

平成28年度

井手町総合教育会議議事録

井手町総合教育会議議事録

招集年月日 平成29年3月29日(水) 午後2時開会

招集場所 井手町自然休養村管理センター 第2会議室

議事日程

- 1 開会
- 2 平成29年度井手町教育行政について
- 3 その他

出席委員

町長	汐見 明男
教育委員長	奥西 康人
教育委員長職務代理者	森田 正弘
教育委員	古川 透子
教育委員	古川 幸子
教育長	松田 定

職務のため出席した者の職氏名

教育次長兼学校教育課長	中島 一也
学校教育課課長補佐	中谷 誠
学校教育課課長補佐	加藤 益丈
社会教育課長	高江 裕之
給食センター所長	藤崎 裕司

事務局

理事兼総務課長	脇本 和弘
総務課主事	片岡 侑也

会議傍聴者 なし

○事務局 それでは定刻となりましたので、井手町総合教育会議を開会いたします。

私は本日の司会を務めます、総務課の片岡でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本会議につきましては、会議録を作成し、公表することを予定しています。

また、報道機関による取材等を受けた場合には、会議結果、概要等について情報を提供することとしておりますので、委員の皆様方におかれましては、ご了承いただきますよう、お願い申し上げます。

それでは本日の会議は、お手元にお配りしております次第に沿って進めてまいりたいと考えております。まず、開会に当たりまして、汐見町長よりご挨拶をお願いいたします。

○町長 本日、総合教育会議を開催させていただきましたところ、教育委員の皆さん方には、年度末の何かとお忙しい中ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。平素は、本町の教育行政の推進にご尽力いただいておりますことに、この機会をお借りして厚くお礼を申し上げます。

さて、平成28年度もあと2日を残すだけとなりました。今週の月曜日、27日でありましたけれども、3月定例町議会が閉会をいたしました。最終日に新年度予算が、共産党議員1人の反対はあったものの、他の議員の賛成によりまして、可決をしていただきました。今回の新年度予算の総額でありますけれども、一般会計・特別会計を合わせまして75億ほどで、前年度比5.2%の増となっております。特に、一般会計の伸びが大きくて、約45億2千万、前年度比7.3%の伸びということであります。この規模でありますけれども、平成11年度で約46億2千万、これが最も大きい規模でありましたけれども、それに次ぐ、2番目に大きい規模ということになります。しかも平成11年度でありますけれども、人件費や借金の返済に当たります公債費、これを合わせますと約18億8千万円ありました。それ以降、行財政改革に取り組んでいった結果、この新年度予算では約10億5千万ほどでありますので、約8億3千万円、率で44%と、大幅な減少ということになります。当然、人件費や公債費が減って、住民サービスや、あるいはまちづくり対策費は増えるということ

になりますと、住民側から見ると中身の濃い予算であるということで、評価いただけるかなと思っております。

時間の関係もありますので、全体を申し上げるということはありませんけども、その中の福祉・教育の関係で、新規事業について少し説明させていただきますと、まず、福祉関係でありますけれども、毎年バリアフリー検討委員会から提言をいただいております、それを新規事業に予算計上しております。今回は、子育てサークルから提言をいただき、ベビーチェアやおむつ交換台を、役場と図書館と、多賀の駅の東側の各トイレにそれぞれ設置をすることにしております。それと、これまで医療費助成を中学卒業までしてきましたけれども、この4月1日からは、高校卒業までに拡充をすることにしております。これが、この京都府南部で初めての取り組みということになります。

また、教育関係でありますけれども、これはもう皆様方の御承知のとおりでありますけれども、食物アレルギーの児童生徒が増えてきたということで、この夏休みに、それに対応できるように独立した部屋を設けまして、2学期から代替食を提供できるようにしていきたいと思っておりますし、もう1つは、泉ヶ丘中学校の国際交流事業が始まってから、生徒たちの英語に関する関心が高まってきたということで、現場の方から英検4級の検定料を助成してほしいという声がありまして、すぐに対応させていただいて、今日までできているわけありますけれども、新年度からは、年度に1回、英検の3級以上までということで、これも拡充をさせていただくこととしております。

このように、平成29年度も少しずつではありますがありますけれども、教育や福祉に充実を図ることができると思っております。もちろん、これまで取り組んできております教育や福祉、これはなんら後退することのないようにしていくことは当然であります。これから町の財政状況は厳しさを増すものと思っておりますけれども、今後も教育や福祉が後退することのないように、毎年少しずつでも充実を図れるように努めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いをいたしたいと思っております。

今日は、平成29年度の井手町教育行政についてということで、意見交換をさせていただきたいと考えております。限られた時間ではありますが、よろしくお願いをいたしまして、開会のあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局 ありがとうございます。それでは本日配布しております、資料のご確認をお願いしたいと思います。まず、次第が1枚、次に出席者名簿が1枚、そして資料といたしましてA3の給食センターの図面が2枚、以上でございます。

それでは次第の「2 平成29年度井手町教育行政について」以降につきましては、これまで同様、会議の主宰者である汐見町長に進行をお願いしたいと思います。それでは汐見町長お願いします。

○町長 はい、それではこれより議事の進行をさせていただきますのでよろしくお願いをいたします。

早速でありますけれども、本日の議題に入っております。まず、次第の「平成29年度井手町教育行政について」につきまして、意見交換を始めさせていただきますと思いますけれども、ご意見等ございましたらお願いします。

○教育長 まず私の方、事務局の方からは、井手町の教育大綱に沿って、3点報告をさせていただきますと思います。

まず1点目は、中学生夢・未来支援事業の一貫としての国際交流海外派遣事業について、平成29年度、来年度は、派遣の年となりますが、その応募、選考の状況を中心に、報告させていただきます。

2点目は、いじめ事象に係るこの間の調査結果と取組みの状況を報告させていただきます。

続いて3点目は、食物アレルギー対応のための学校給食センターの施設整備計画について報告させていただきます。

それでは、順次担当から内容を報告させていただきます。

○学校教育課課長補佐 それでは1点目の、国際交流海外派遣事業についてご報告させていただきます。

この度、第3期の派遣生徒の選考が終わり、3月31日付けで結果を生徒宅に郵送する段取りとなりました。今回17名の生徒が応募し、10名の代表生徒が決定しました。選考は、レポート、一般面接、英会話面接、学校での生活や活動といったものをそれぞれ5段階で評価し、総合評価で決定いたしました。

評価者は、泉ヶ丘中学校の7名の担当職員、両小学校の校長、教育委員会指導主事の計11名です。

この間、姉妹校からの代表生徒受入時にも、積極的に話しかける生徒が増えたり、英検チャレンジ推進事業では、英検3級以上の合格者も増えたり、全体的にも、本事業の効果が表れてきており、来年度も一層充実できるようにしていきたいと考えております。

2点目のいじめ調査の結果について報告いたします。町の基本方針に基づきまして、家庭持ち帰りのアンケート調査と、個別の聞き取り調査を合わせて実施いたしました。第1段階の嫌な思いをしたと感じた者、心身の苦痛を感じている者につきましては、小学校で80件、中学校で12件です。第1段階の中で、組織的、継続的に指導や経過観察の必要がある第2段階につきましては、小学校はありません。中学校につきましては8件です。中学校では、現在も事象が続いていたり、このことによって、欠席が続いているといったような状況はありませんが、教科担任であったり、クラブ担当といったように、複数の教職員で見守っていく必要がありますので、第2段階としております。全体的には小学校低学年辺りが多く、年齢とともに少なくなっていく傾向や、第1段階では、冷やかし、からかい、悪口、嫌なことを言われたことなどが多い傾向につきましては、前年度と同様です。なお、重大な事象の第3段階はありません。また、アンケートや聞き取りと合わせて、各校のいじめ対策委員会で月毎のチェックを行い、毎月の校長会議の中でも報告していただくようにもしております。

- 給食センター所長 3点目の、食物アレルギー対応給食センター施設整備についてご報告させていただきます。さきほど町長のご挨拶にもありましたが、給食センター内で、新たに食物アレルギーのある児童、生徒に対して、原因となる食物を取り除いて、代替食の提供が可能となる施設の整備を行います。周りを壁で仕切り天井も取り付け、空調設備も備えた、独立した専用調理室で、専用の調理備品として、調理台、流し台、炊飯ジャーなどを設置することとしています。

図面を説明させていただきます。まず全体の図面ですが、1枚目の丁度真ん中辺りに、2枚目の図面と同じような形の部分があると思いますので、先にこ

の大きい2枚目の図面を見ていただけますか。新たに周りに壁を設置する中で、両方から物を出し入れできる冷蔵庫、消毒保管庫に加え、給食センターは天井も高いのですが、この部屋は、その中に天井も設けてというような形で、新たに入口も別につけ、完全に独立した調理室の整備を考えております。その中には、調理鍋や、二層シンク、IHの調理器、炊飯ジャーなどを設置し、食物アレルギー専用の調理室を整備していくものとしております。以上でおわかりいただけましたでしょうか。

○町長 今、それぞれ説明がありましたが、この件に関して、質問・ご意見等ありましたらお願いします。

○教育委員 1番目の海外派遣なんですけども、5年目で非常に定着してきた感じがありまして、生徒たちも派遣に行くんだという気持ちで英語に力を入れる生徒が増えたという話をよく聞くようになったのですが、勉強するという気持ちを持つための目標というかそういうものとして、非常に役に立っている事業だと思います。

応募の状況などは今伺ったので、わかりましたが、例えば、具体的にうちの子どもとかは行かせてもらったので、外国の方と交流することが抵抗がなくなったのではないかなと思います。今も、子ども同士がLINEでやり取りなんかして、近況を報告しあい、また大きくなって大学生とかになったら会いに行ったりとか、そういうような繋がりが予想できるような感じで楽しみです。

この海外派遣の予算、基金を活用されてると聞いているんですが、実際行ってみて、行く方の年は実際のところお幾らぐらいかかっているのかなと思います。

○教育次長兼学校教育課長 海外派遣の基金の執行の状況でありますけれども、行く年については大体400万円を下回るような額でいけております。受け入れの年については100万円を予算計上しておるわけですけれども、それで残があるというような感じで、行って来てを、往復で500万円を下回るような状況かなということで、十分事業が継続できるというように見込んでおります。

○教育委員 ホームステイに行く子たちは、ホテルに泊まるという形よりも、お互いの家庭ですね、こちらから行ってお世話になったり、向こうから来て日本の家庭にホームステイするという形で、交流することで効果が高まっていますよかったですと思います。

あともう1点。町の職員の方で、シドニー事務所の方に行っている方がおられると聞いたので、今年は学生が行く年ですので、その辺の関わりとかはあるのでしょうか。

○教育長 今仰ったように、クレア、いわゆる自治体国際化協会、このシドニー事務所に、所長補佐という役職で行ってございまして、ここの目的は、各自治体の海外活動の支援、姉妹校の交流支援とか職務にあるようでして、行程の中で、シドニーで1日社会見学というか、体験する予定を組んでいるんです。そういう時に支援をいただいて、今後に向けての雛形が作れるんじゃないかなということで、事前に連絡して色々協力を仰ごうかなと思っております。

○教育委員長 海外派遣の関連になるかもしれませんが、先ほど町長の方から英検のお話がありましたけれども、今までの状況の説明と、英検に係る費用、前々回のオーストラリアへ行った時のビデオを見てますと、泉中の子がですね流暢な英語で話をしているのは、英検の影響が大きいなど。4級から3級、そのあたりの今までの状況、28年度の実績でも良いので、お聞かせいただきたい。

○教育次長兼学校教育課長 只今の、英検チャレンジ推進事業の関連のご質問です。

まず、3級の受検費用につきましては1回2,800円になっております。ちなみに、4級は2,100円でございます。あと、合格者の実績ですが、年3回受ける機会がありまして、28年度末で、4級が45名、3級が12名、準2級が4名、合格しております。28年度の状況は以上です。

この事業の目標が、中学校卒業時までには全員4級合格を目標に掲げていまし

た。26年度の卒業生の合格率が約70%、27年度の卒業生の合格率約82%、平成28年度の卒業生の合格率が約70%でございます。3級以上の取得の状況につきましては、平成26年度が約12%、27年度が約18%、28年度になりまして、約30%。年々3級以上の合格者が増えてきている状況でございます。

○教育委員長 海外派遣が影響して、英検の合格者が増えているのか我々にはわかりませんが、これから先もそういうことに対して、対策というか、英検の補助はこれから先もずっと続けていただけるのですか。

○教育長 私どもとしては、ぜひとも継続していきたいと思っておりますし、先ほどもありましたように、子どもたちの頑張りとか、結果ですね、来年度から3級以上につきましても、年度に1回全額補助していこうと拡充していただきましたので、大変喜んでいるところです。

○教育委員長 もう1つ聞きます。英検対策として、学校での指導で何か変わったことをやっておられますか。

○学校教育課課長補佐 チャレンジ学習として、講師の先生も入っていただきながら、英検、数検、漢検といったようなことにチャレンジしていくような学習、補習を実施していますので、その中で過去問題にもチャレンジさせており、意欲も高まっておりますので、年々合格者も増えているという状況になっております。

○教育委員長職務代理者 いじめ問題についてお伺いしたいと思います。いじめ問題は全国的な問題として捉えられていますし、大津でも、命を落とすという残念なことになっております。いじめは、いじめを受けた生徒の権利を著しく侵害する人権問題だと思っております。また、どの学校でも、どの子にも起こりうる問題だと言われております。

今報告ありましたように、年間3回だと思っておりますが、いじめ調査を実施され、アンケート、聞き取りをしながら、実態把握と指導をしていただいている。

アンケートも落ち着いた環境で実施するため、家庭ですね、家に持ち帰って、されているということで、これ、各市町村でしているところは少ないと思うのですが、家の人にも見てもらいながら、子どもと一緒に考えて、アンケートに答えるのはとてもいいことではないかと思っています。

また、子どもたちも、児童、生徒会の合同会議でも、いじめ防止のための、いじめゼロ宣言ですか、これも行っているということで、子ども達からもいじめ問題について考えて行動していこうということではないかと思えます。

さらに、井手小と多賀小と泉ヶ丘中学校の3校の井手町PTA連絡協議会でこんなファイルがありますね。裏を見ますと、井手町子どもを守るスマホ8ヶ条というのが配られ、他の市町村ではしておられるかはわかりませんが、とてもいい取り組みで、第1条は、小学生は夜の8時、中学生は9時以降は、スマートフォン等は保護者に預け使用しないとか、第3条、個人が特定できる写真や動画は公開しない。そして第5条、人の悪口や、自分が嫌だと思ふことは絶対に書かない。こんなことも書いて、全ての小中学生に配っておられて、子ども達にも家庭で一緒に考えると、こういうことはとてもいいことだと思います。最後の方に書いてある、LINEですね、この頃LINEに関してのトラブルも全国的に増えていますので、そういうことについての未然防止のためにも大切だなと思います。

こんなふうに取り組みがなされていますが、学校で毎日ですね、日頃の指導、子どもの様子をしっかりと見ながら、取り組みを進めていく、これが一番重要ではないかなと。今も、気をつけてやっていただいているわけですが、早期発見、早期対応が重要だと思います。

幸い井手小も多賀小も泉ヶ丘中学校も、落ち着いた雰囲気、子どもたちも積極的に学習している様子ですので、大変嬉しいですし、やっぱりいじめを許さない学校づくり、そして日頃から子どもたちの様子を見ていただいているのですが、さらに深く子どもを見ていただいて、いじめの早期発見、早期対応に繋がっていただけたらなと思います。

質問なんですが、井手町のいじめ防止対策推進委員会が発足していますが、その活動内容と、各小中学校で、いじめの防止対策会議が各校で行われておりますので、その様子なんかが伺えたらと思います。

○教育次長兼学校教育課長 いじめ関係のご質問ですが、まず井手町いじめ防止対策推進委員会というのを設けておまして、委員12名で構成しております。現在のところ年2回、1学期のいじめ調査の結果報告、2学期のいじめ調査の結果報告を2回の会議に分けてしております。

また、啓発事業ということで、子どもたちのいじめゼロ宣言等の言葉を入れた啓発グッズを、その委員会の中でお諮りいただいて作成し、全児童、全生徒に配布しているような取り組みもしています。

また、委員の中から、情報提供いただいたいじめ防止対策に関する資料なんかも、各校に配布したり、啓発活動に取り組んでいるところでもあります。

次に学校の関係でありますけれども、全教職員が、毎日チェックカードというものを活用して、子どもたちの異変に素早く気付くようにしています。そのチェックカードをもとに、毎週各校でいじめ対策会議を設けまして、最終、月まとめにして、教育委員会にも報告するというので、細かいチェック体制を28年度から強化して取り組みを進めてきたところでもあります。

○教育委員長職務代理者 児童会、生徒会合同でいじめゼロ宣言をどのような形で作っていったのかわかれば、お伺いします。

○学校教育課課長補佐 児童会、生徒会合同会議が年2回ありますので、各小学・中学校の代表が集まってきます。その中で、3つのグループに分かれて、それぞれが、各校から吸い上げてきた意見を話し合う中で、最終3つの目標に絞り込まれて、いじめゼロ宣言が作られました。それにつきましては、その3つの目標を、また各校に持ち帰って、各校のそれぞれのいじめ防止に向けた取り組みにつなげていくという形で実施をしております。

○教育委員 いじめと直接関係がないかもしれませんが、不登校気味の生徒さんがおられるということで、今把握している限りどのくらいの生徒さんがいらっしゃるのか、また、実際先生方とかは具体的な対策としてどのようにされているのか伺いたいのですが。

○学校教育課課長補佐 関係機関と連携しているケースもありますし、例えばフリースクールといったようなところと連携していて、そこが行きやすい場になって、活動を始めている子もいるような状況です。

また、個々のケースがそれぞれ違いますので、ケースごとに資料を作成して、その資料をもとに取り組みを進めています。子どもたちの状況も、その取り組みによっていろいろ変わってきますので、その状況を確認しながら、また次の手を打っていくというようなことをしているわけなんです。龍谷大学の教授にも入っていただき、その記録をもとに、取り組みのアドバイスをいただいております。少しでも子どもたちが心の元気を貯めて、学校に来れるように、ということで、学校でケース会議を持ちながら取り組みを進めていっているというような現状です。

○教育委員 給食についてなんですが、アレルギー対応の給食センターをわざわざ1部屋作ってと、お話をお伺いしたのですが、アレルギーを持っているお子さんに、部屋を1つ用意してということになりますよね。そこに、従来から調理にあたっておられる調理員の方が、今日は私が担当で、みたいな感じで調理をされるのか、それとも、アレルギーの知識をお持ちの専門の調理員の方が来て調理をされるのか、その辺はどのようにお考えなのかなということと、あと、アレルギーは日々体調とか、1年経ったら違う症状が出たりとか、日々変化があると思うのですが、アレルギーのある児童・生徒さんの状況をどのくらい細かくつかんで、報告とか情報交換を親御さんされているのかと思って。多分定期的に通院されているお子さんが多いとは思いますが、アレルギーの検査を年に数回受けてられると思うのですが、検査を年に何回、受けるようにしてくださいとか、そのような情報交換とかどのくらいのスパンでされているのか伺いたいと思います。

個々に、この間まで食べてどうもなかったものが、食べたら痒くなったりするとかあつたりすると思うので、その辺が子ども自身もどのくらい自分のことを周りに分かってもらえるのか、気になるところかなと思って、別の部屋で調理されるので、個々の分に分けることができると思うのですが、それが配送されて学校に行くわけですね。その時に間違えて、違うものと混ざったりとか、

ということにならないのかなと。その辺の工夫とか、どうされるのかなと。間違いなくその子の教室に行って、その子に渡すのかなというのが、やっぱり給食なので間違えて食べたら、命に関わる子もいると思うので、その辺がクラスの中でほかの児童や生徒と、間違えて食器に触ったりしたら危険があるのかなと思うので、その辺が、この子の所には他の物を入れてはいけないとか、クラスの中での教育というか、体質が違うからこの子はこれを食べるという、誤認識がないように対応していけるような教育というのが今まで以上に必要のかなと思ったりもして、その辺のことを色々伺いたいと思います。

○給食センター所長 まず調理員なんですが、専門の調理員を1名配置して、栄養士がそこについて、2名体制で調理をしていくということを考えております。

混ぜたらという話もありましたが、その部分につきましては、平成29年時点で12名になろうかと思うのですが、食器やトレイは色を変えて、保温できる個々の配食用食缶にはそれぞれ個人の名前をテープで貼るので、他の子と間違えるようなことにはならないと思います。

また、学校生活管理指導表という、医者診断書的なものを毎年年度の始めに出してもらって、この子のアレルギーは何かと、例えばイカであったり卵であったり牛乳であったり、その子にだめな物を必ず医者から診断して、書いてもらって、その物しか私たちはアレルギー調理室でやらないという考えです。ですから、1年で変わったりすることもあるんですけども、学校生活管理指導表という医者診断書のようなものを毎年出してもらって、それをもって対応していきたいと考えています。

○教育長 若干、補足させていただきます。専任の調理員を配置するというのはお答えしたとおりですが、専任の調理員は、特別調理のコースに入りましたら、一切調理が終わるまで、共同調理はいたしません。物が混入するのを防ぐためですね。

ただ、この子にどういう調理をして、どういう代替食を提供するかというのは、専門の栄養教諭がおりますので、その栄養教諭が、全部献立を作って、それをもとに調理するわけですから、配置する職員そのものが、専門の人間であ

るということでは考えておりません。あと、そうは言いましても、誤食誤配ということが絶対にないように、それぞれの各段階、作業工程、仕上がったものを配送する段階、それを受け取る学校の配膳員さん、それから、各教室での担任の役割、全部各段階でチェックできるシステムを確立しようではないかということで、校長会代表と、教育委員会と、給食センターと、3校の養護教諭が入った委員会を設けまして、それらのシステムを確立するための検討を、今着手しているところです。実施までには、きっちりと確立したいと思っております。

あと、大事なのは、学級での食物アレルギーに対する共通理解、相互のサポートだと思うんですね。そのために、学級内の子どもたちの指導を徹底していきたいと思っております。極端な話、牛乳アレルギーの子が、他の子の牛乳が飛び散ったものも気を付けないというのもありますので、教室内での相互理解が大事だと思いますので、委員のご指摘の通りですので、学級での指導を徹底するよう進めていきたいと思っております。以上です。

○教育委員長 12名の内訳わかりますか。

○教育長 平成29年度の対象者は、井手小学校4名、多賀小学校が2名、泉ヶ丘中学校が6名です。

○教育委員 今年度4月の小学校の新入生の数、中学校の新入生の数を伺いたいと思っております。それから今年の泉ヶ丘中学校の3年生の進路状況、もう1つは、中学校を卒業した卒業生の、高校や社会に出る方の情報の把握的なことをどうされているかお伺いします。

○学校教育課課長補佐 来年度の入学児童生徒数ですが、現在の予定ですが、井手小学校が29名、多賀小学校が20名、泉ヶ丘中学校が61名となっております。

進路状況ですが、41名の卒業生のうち40名が高校進学ということで、進路が決定いたしました。38名が全日制で、2名につきましては、定時制と報告を受けております。

また、卒業後の進路状況、子どもたちの様子ということで、高校の方とは常に連携をしておりますので、高校の方から情報が入ってくるようなことで取り組みは進めておるのですが、残念ながら退学という形で進路を変えた子どももいますし、転学された子どもも28年度はおります。

そういったものにつきましても、すぐ高校の方から中学校に連絡が入るようになっていたので、時には中学校の元担任が、連携しながら、活動していくということもあるので、いち早く子どもたちのそういった状況が把握できるように、いろんなところで情報交換会を行っている状況です。

○教育長 入学者数ですが、この間、転出転入などで変動しておりますので、現在の確定数値を後ほど申し上げます。

○教育委員 この間、成人式に参加した時に思ったんですけど、成人した時にみんなであって会えるような、同級生に全員会えるようなことができたなら、井手町はいい町だなと思えると思うので、手厚くできることを活かして、やっていたらなと思います。

○教育委員長職務代理者 特に小・中学校でジョイントアップ授業というのが前からなされてて、学力向上にも大変いいなと思っています。だから今ありました、高校とかの連携を以前からありますが、そのあたりの今の様子なんか、中・高の関係の様子なんかわかれば伺いたいと思います。

○学校教育課課長補佐 中・高の中での情報交換につきましては、井手町人権教育連絡会がありますので、その中で高校の先生に参加いただいていますので、そこでの連携もあります。

また、井手町人権同和教育研究会という中に加配交流会がありますので、その中には高校の加配の先生が入ってもらっていますので、そこで情報交換ができるような状況になっております。

○教育委員長 中学校卒業されて、高校へ進学された。3年間高校へ通われている方も多数いると思うんですが、途中で退学したり辞めたりする人がかなり

いるんちがうかなと、毎年こう思っています。というのは、卒業されて高校行ったはずが、いつもどこかでウロウロしとるな、そういう子が、途中で躓いて挫折したのちがうかなという気がします。そういう把握はできてないんですかね。中学校の生徒が高校へ進学して、その後のことは任せているというのではなしに、なんかの形で把握できないかなというのは思います。

- 学校教育課課長補佐 先ほどの2つの会の中での交流会なんかでも、その現状で気になる、勉強の方に気持ちが行かなくて、単位を落としがちな子とかいたりしますので、そういった情報を高校の方から言っていたりとか、長期に休みがちになってしまっている現状があった時に、高校の方から中学校の方に連絡があったりします。高校の方の担任が家庭訪問をして、長期に欠席するようなことはなかったケースもありますが、場合によっては、中学校の元担任が連携をして家庭訪問という場合もあります。

ただ残念ながら、昨年度の中でも、十分情報交換はしているのですが、退学をしてしまったというケースもありまして、すべて把握して対応できているわけではないのですが、なるべく高校卒業までサポートできる形を心掛けてはおります。ただ、全部が全部上手くいってるかと言ったら、難しいケースもあります。

- 町長 我々から見れば、この周辺の市町村に比べたら、かなり手厚いサポートができています。

- 教育長 中途退学の問題はですね、全国的にも大変重い問題でありまして、システムとしてですね、必ず追跡指導として、ずっとシステム全部を把握できるという形には、どこともなっていません。

ただ、井手町は、人権教育連絡会やら、加配交流会を含めて、そういう窓口を持っているというのは、他の町より圧倒的に組織として強みであると思います。

実際の所は、公立高校の加配の教諭とかなり連携があり、私学の場合は個々のケースにおいて、学校の方から連絡があつて、一緒に行動する。情報があつてからしか動けないんですね。だから個々の子どもの個人情報に係ることも

ありますし、在籍が高校である以上こちらから働きかけることはできかねる状況もありますので、その辺は、公立私立含めまして、できるだけ送り出した側として、今後も連携していきたいとこのように思いますが、少なくとも、町長からありましたように、システムとして持っているのは、井手町のいいところで、引き続き連携していきたいと思っています。

○教育委員長 もう1つ、38名が全日制に入学したとのことですが、これは公立、私学の内訳はわかりますか。

○教育次長兼学校教育課長 高校入学の全日制の内訳ですけれども、公立高校が24名、私学が14名です。

○町長 他、何かありましたら。

○教育委員長職務代理者 先ほど出ましたけれど、国際交流海外派遣事業に係るのですが、私、いいなと思うのが、派遣された生徒のみならず、泉ヶ丘中学校では、全員がペンフレンドで交流しているとか、派遣された生徒が、両小学校に行って報告しているとか、また文化祭でも写真展示、ビデオなんか見せてもらったり、活動がわかると。たしか去年の体育祭でもオーストラリアの生徒が参加していたと思います。本当に派遣された生徒だけでなく学校全体、また、小学校、町全体にもいい効果が出ていると思うので、やはりこういうことを立ち上げてもらって、今後益々充実していったらいいなど。大変、良い取り組みが広がっているなと思います。

○教育委員長 話題になっている支援学校関係ですが、関連事業で周辺道路整備があると思います。このへんの関連とか今後のことをお聞かせいただけたら。

○町長 開校が平成32年4月、あと3年ということで。用地買収はもちろん終わっています。京都府の方からその時、聞いたのですが、実際買収にかかった日数が3ヶ月であり、特別支援学校と言え、障がいをお持ちの子どもという

ことで、府内も、全国的にも、障がい者に対する差別意識がある。そういう中で、なんらそういう声も出ず、すぐ協力して、なおかつ所有者の所に行ったら、礼を言ってもらった。府の職員も良い意味で感心していました。さすが井手町だと。それを聞いて私も喜んでいきます。

それと、かなり残土処理が出るということで、費用が残土処分だけで4億ほどかかるということなので、それを才田のところへ、その分を利用して、道を拓けていきます。新四郎山グラウンドの上がるところから2車線で片側歩道で府道まで、ということで、北側の方に土が入ります。

また、あわせて、駐車場もできたらいいなど。台数までは把握できないけど、3、40台くらい駐車できるような駐車場を道沿いに作れたらと思っています。

新年度予算で町として、道路予算を5億近く組んでいますし、上下水の関係も、町で整備し、間に合うように計画しています。

あと、京都府の方から聞いているのは、水路の付け替えでありまして、これも入札終わって、それから造成工事、本体工事ということで、これは平成32年4月の開校に間に合うようにスケジュールを組んでやっていただいているので問題ないと思います。

事業費は、町で概ね10億から11億、府で概ね65億、合わせて約75億であります。支援学校ができますと、雇用の場もできます。

○教育長 すべての人を含めて200名近くらしいです。

○教育委員長 雇用ができるわけやね。

○町長 雇用の関係で言うと、この3、4年で企業誘致の取り組みを進め、4つの企業が入り、操業し、もう1社6月に新たに建物工事が進められます。この5つだけでも500人の雇用が出てきました。さらに、来年には白坂の3工区が終わり、3区画か4区画ほどできます。

今、景気をどう判断するかは別として、経済的にはそれなりに活発に動いているというか、既に企業の問い合わせとかも来ているようであります。

井手町も人口が減少して個人住民税が減ってきました。この間で8千万ほど減っている中、税収が今年度増えるというのは、企業の進出があったからこそ

であり、法人の固定資産税、土地と建物と償却資産、これは間違いなく増えます。今年度でも2千万近く増収を見込んでおり、やはりこの白坂の開発はかなり大きかったと思っております。

○教育委員長職務代理者 特別支援学校が井手町にできることによって、拠点校になりますから、各小・中学校とか、相談とかアドバイス貰うとか、いろんな面でも発展していけるのではないかと思いますね。

○学校教育課課長補佐 先ほどご質問のありました、中学校の新1年生の入学人数ですが、59名と確認してきましたので、ご報告させていただきます。

○教育委員長 61名が59名になったということですか。

○学校教育課課長補佐 内2名がフリースクールということで、59名です。

○町長 今、玉水駅、山城多賀駅間の奈良線複線化工事が始まりました。これが平成31年3月には完成します。それに合わせて玉水駅も今、仮駅舎の工事が始まっていますし、駅の橋上化と自由通路と、これは複線と併せてやりますので、平成30年の年度末に完成します。

平成31年度に仮駅舎の解体と、また、町の方では東側に駅前広場を整備します。また、杉山弘文堂さんの西側から東側の駅前広場まで歩道を作ることとしております。西側の駅前広場は京都府に進めていただき、平成32年4月には全体が完成して、駅全体がかなり変わります。

役場庁舎についても話させてもらいます。

この新年度予算で、基本構想と基本計画の策定をしていくわけですが、場所は、新庁舎建設検討会議で、宇治木津線と和東井手線の交わる部分あたりに庁舎をと意見をいただいております。まだ、宇治木津線のルートがきちっと決まっていないので、今年の1月に東京に行って早く決定していただくよう話をしてきました。急いでいるのは、去年1年間、総務省や国交省に、新庁舎建設に関する財政支援が何もないので、要望をしに行って、去年の暮れ閣議決定の時に、本町の庁舎は、木津川が決壊したら約5メートル水没するというので、

洪水浸水想定区域内にあることから、こういう区域内にある庁舎については財政支援をしようということで、決定されました。ただ、この財政支援の期間が平成29年度から平成32年度の4年間、繰り越しても5年間ということでもあります。なかなか厳しい状況ですが、規模や構造などをどうするか、具体的に障がい者団体や、老人クラブ、子育てサークルなどいろんなところから意見を聞かせていただきながら、進めていきたいと考えています。

玉川の上玉川橋も通行止めとなっており、住民の皆さんにご迷惑をおかけしています。工期は1年半かかるということで、河川なので災害が起こらないよう橋台を片方ずつやっていくとのことでもあります。それまでご辛抱をお願いすることになります。

山城多賀駅は先行して去年8月に終わりました。エレベータは、当初、4億2、3千万ほどかかると言われましたが、最終は、約1億7千万でした。

○教育委員長 ほとんど町負担ですか。

○町長 国から補助金は貰います。駅舎であったら京都府から補助をもらいます。JRの負担がないから、それはおかしいと言って、共産党は反対しています。おかしいと言っていたら、何もできない。だから、複線化も反対している。多賀バイパスも反対だったし、白坂も反対、宇治木津も反対でしょう。本町の税収は9億満たない、平成27年度で8億9千万程度かな。宇治田原だったら15億程度、久御山だったら50億程度。宇治田原は倍近くあります。

今、庁舎とか、玉水駅とか、支援学校の道路とか大型事業があります。井手町は税収が少ないから、計画的に基金を積んでいく。国際交流・海外派遣事業も、久御山町みたいに税収が多いところならば、基金を積まなくても、毎年実施できるが、本町ではそれができないので、積める時に6千万積んで、それから2年6百万で20年間いけるようにする。そういうやり方をせざるをえない。そうすれば、間違いなしに20年間は余裕をもっていけるということになります。

子どもの数は確かに減っているけど、入学式とか卒業式、非常に良い感じでされてる。

○教育長 年々歌も上手くなってるという評価ですね、この間の卒業式とか。

○町長 よろしいですか。そうしましたら、これで総合教育会議を終わります。
ありがとうございました。